

第138号

2025年1月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町5番18号
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

養子が養子であることを知る時に

一般社団法人ヘアホープ 代表理事 ロング 朋子



筆者は、特別養子縁組あっせん機関のワーカーです。当団体から、二人目の養子を迎えることになったある養親さんから、こんな話を聞きました。保育園に行っている一人目のお子さんNちゃんが、妹がやってくるのがわかり大喜び。保育園でも、クラスのおともだちに「私と同じように、違うママから生まれた赤ちゃんがうちに来るんだよ。これからずっと私の妹になるんだよ」と話していたそうです。Nちゃんからその話を伝えられたクラスのおともだちの反応ですが、七夕の時期だったことから、短冊に「ようしのきょうだいがほしい」という願いごとを書く子が続出した、というお話でした。私は思わず笑ってしまったのですが、子どもの心の柔らかさを改めて感じた話でした。

日本が1994年に批准した子どもの権利条約第7条には、「父母を知る権利」についての記載があります。「父母を知る権利」は「出自を知る権利」とも呼ばれており、血縁上の父母から分離されざるを得なかった社会的養護下の子どもたちや、生殖補助医療によつて出生した子どもたちにあてはまる権利として考えられています。最近では、特別養子縁組を前提に委託する際には、必ず養親さんへ対し、「お子さんに養子であることや、新しい家庭へ繋がった経緯などを伝えてください」とお願いすることが当たり前だと捉えられるようになってきました。

前述のNちゃんは、自分自身が「違うママから生まれた」ことを肯定的に受け止め、クラスのおともだちにも自身が養子であることをオープンにして

いたそうです。おともだちも、そんなNちゃんの存在を、自分とは違うけれど肯定的に捉えていたのではないのでしょうか。

多くの養親さん・里親さんたちは、研修等で真実告知やライフストーリーワークについて知り、子どものアイデンティティの確立のために出自を知ることが大切であることを理解して、日々の生活の中で養親子としての在り方を学んでいきます。実親子では改めて考えることもない「出自」は、養親子や里親子にとつては避けることができない重要な要素なのです。

子どもへの深い愛のゆえに、自身の持つ親子像の変革を受容していくご夫婦にお会いするたびに、彼らに対する深い敬意とともに、例え過酷な出自を背負つ

ているお子さんであっても、寄り添い支える家族ができる特別養子縁組制度のすばらしさを再認識させられています。

聖書の一節に、「わたし(神様)の目には、あなたは高価で尊い。わたし(神様)はあなたを愛している」(イザヤ43:4)とあります。子どもが自身の出自を知ることが、時には痛みを伴うでしょうし、恐れや悲しみに向き合わなくてはならない時があるかもしれませんが、しかし、養子としての自分が神様に愛されている大切な存在であり、養親や関係機関の多くの大人たちが自分のために力を尽くし、今の幸せな家庭に繋がることができたのだと理解できる、そんな真実告知やライフストーリーワークを目指したいと、Nちゃんの話が改めて感じさせてくれました。

謹賀新年

いつも社会福祉法人栄光園に対する格別のご厚誼を賜り、心から感謝いたします。本年も相変わりにませずご指導・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2025年 1月

- | | |
|-------------|-------------|
| 社会福祉法人 栄光園 | 理事長 江口 敏一 |
| 児童養護施設 栄光園 | 施設長 岡田 豊弘 |
| 乳幼児総合支援センター | センター長 安西 恵子 |
| 青山保育所 | 所長 本庄 智宏 |
| 野口保育所 | 所長 工藤 直子 |
| | 職員 一同 |

児童養護施設

クリスマス祝会

マツモトホーム

保育士 帆秋 堅太



今年にはコロナも落ち着き5年ぶりに3部の食事会まで実施することが出来ました。

1部礼拝では全員でお祈りをして、代表の児童がろうそく点灯を行いました。

2部祝会では、9月の終わり頃から「幼児ダンス」「聖劇」「児童有志」のグループに分かれて本番までの約3カ月間練習を頑張ってきました。

昨年は朗読で「聖劇」を行いました
が、今年には5年ぶりに劇に挑戦しました。職員、児童共に聖劇を経験したことのない人が多いこともあり、職員共に苦戦をしていましたが、週に何回も練習をして児童も自信をつけて本番では今までで一番と言っているほどです。楽しい聖劇を披露することができました。
「幼児ダンス」では、団子3兄弟を踊りました。練習のときからノリノリで踊り、本番では少し緊張をしていたようでしたが良く踊れており、可愛い姿が見られました。来年度は小学生になる児童が2名おり、小学生になってからの目標についても皆の前で堂々と発表できていました。

「児童有志」では、動画作りをしました。1つは各国のクリスマスをテーマ

に児童が絵を描いたり、各国のクリスマスの過ごし方等を調べて動画編集をしていました。2つ目の動画は「すんデレラ」マツモトホームの日常とシンデレラの話をモデルにマツモトホームの児童、職員でオリジナルの内容を考え1つのお話を作り上げました。ホームの結末が観られたとてもいい作品でした。

3部の食事会では、職員の作った料理を皆で美味しく食べました。児童養護の恒例となっている、オゴウホームの職員とマツモトホームの児童で結成している「オゴマツ」の漫才はみんな大爆笑でクリスマス祝会の最後を飾ってくれました。

四季を感じる行事



ムラカミホーム

児童指導員 生田 あかり

ムラカミホームでは高校生3名、中学生2名、計5名で日々楽しく生活しています。中学生のみのホームのため、少しずつ大人に近づき難しい年頃の子どもたちですが、まだ残る子どもらしい姿をみてとても可愛らしいと感じます。

ムラカミホームでは季節ごとに行事をおこなっており、春は花見・GWのおでかけ、夏はキャンプ、秋は福岡県の航空祭に行きました。そして、冬の行事として12月にイルミネーションを見にパークプレイス大分に行きました。子どもたちから「イルミネーションを見に行きたい。」という声も多くあがっ



大切なものだと感じます。子どもたちの数ある思い出のひとつになれば幸いです。

2年目を迎えて

ノマチホーム

保育士 山内 孝太郎



ノマチホームは、地域小規模棟で本園からは少し離れた地域の中で生活しています。高校3年生2名、高校1年生2名、小学3年生1名の5名の男子ホームです。今年には運動会や文化祭などの学校行事が、保護者や職員の観覧にあまり制限がない中で開催され、子どもたちにとっても喜ばしいことだったのでないかと思えます。

今年度は小学生が加わったことにより随分とホームの雰囲気明るくなりました。子ども同士の喧嘩はあつるものの何だかんだで毎日一緒に遊んだりおしゃべりしたりして楽しく過ごしているようです。

私は、入職して2年目になり、高校3年生の児童を担当しています。当初、高校生の担当ということで何から始めて良いかわからず不安や心配も強くありました。担当児童との距離の詰め方に苦戦しており、卒業・卒園を控えた今でも対応に困ることがあります。しかし、私が支援に苦慮している時も周りの職員が丁寧にサポートしてくれ、卒園に向けた準備が順調にできています。就職や生活場所を決定する重要な時期でもあるため、学校とも連携

して将来に向けて推し進めているところ
です。

私1人の力では及ばないことが多く
ありますが、周囲からの助言や支援の
お陰で今日までの支援ができていま
す。子どもを導いていく立場ではあり
ますが、同時に自身の未熟さも浮き
彫りになることも多く日々学ぶことば
かりです。子どもたちにとって頼りが
いのある養育者を目指して邁進しま
います。

乳幼児総合支援センター 栄光園

地域イベント

【親子で楽しむ絵本時間】

地域支援 助産師 佐藤 亜由子

9月29日に沖代こども園保育士・
絵本セラピスト馬場志保氏を講師に
お迎えして3歳未満のこどもと保護
者を対象に【親子で楽しむ絵本時間】
と題した地域イベントを開催しまし
た。5組の親子の参加があり2部制
で行われました。

1部は【親子で絵本の世界を楽し
む】ことをテーマに6冊の絵本【いいお
かお、しあわせなら手をたたこう、しろ
くまのパンツ、おててたっち、わたしと
なかよし、くだものどうぞ】が紹介され
ました。音楽にのせたり、手遊びを交
えたり、体を動かしたり、パネルシア



ターを観たりしながらそれぞれの絵本
が披露され、こどもたちはみな楽し気
に目を輝かせていました。また1冊ご
とにその本のもつ魅力やメッセージ性
も伝えて頂き保護者の方も興味深く
聞いておられました。

2部は【大人のための絵本時間】で
親子それぞれの部屋に別れ、親のみを
対象に5冊【どんな色がすき、わらう、
名まえのないねこ、ひとりぼっちのお
さかなくん、だつてだつてのおばあさ
ん】の絵本の紹介がありました。

馬場先生の穏やかで丁寧な朗読を
聴きながら、せわしない日常からひと
時離れ、ゆったりとした時間を過ごさ
れたように感じました。また先生ご自
身の子育て中のエピソード、反省した
こと、こどもが成長してから気づかさ
れたこと、保育士として培った経験か
らのアドバイスやメッセージを頂き、目
を潤ませて聴いている方もいらっしや
いました。

終了後のアンケートには、自分自身
のこと、こどものことを考える時間にな
った、また参加したいという嬉しい
感想を頂き、今後も地域支援の一貫と

して親子で楽しめる温かい企画を計画
していこうと思っています。

サンタさんがきたよ



りすグループ
サブリーダー 看護師 上米良 清香

現在りすグループは3ヶ月〜1歳
5ヶ月までの6名が生活を共にしてい
ます。月齢に幅はありますが一人一人
のペースにあった個々の関りを大切に
しています。

こどもたちは寒さにも負けず園庭や
グラウンドで体をたくさん動かし元気
いっぱい過ごしています。

去る12月25日クリスマス。サンタク
ロースがプレゼントを持って来てくれ
ました。こどもたちはいつもと違う雰
囲気を感じているようでした。プレゼ
ントをもらい、はしゃぐこどもやじつ
と見ているこどもの表情は様々で微笑
ましかったです。

「三つ子の魂百まで」ということわざ
があります。センターで暮らすこども
たちが季節の行事はもちろんのこと、
たくさんを経験し人生健やかに
過ごしていけるよう、りすグループ職



員一同今後とも努めてまいります。

「真実告知」のワークショップ

養子縁組里親支援機関

ブレス・ユニー 本庄 公多子

令和6年10月19日、一般社団法人
「ペアホープ」のロング朋子代表理事を
講師にお招きして「真実告知」のワー
クショップを開催しました。

この日はあいにく、各地の運動会と
重なってしまいましたが、3組4名の里
親さんが参加をしてくださいました。

「真実告知」は、養子縁組をする親子
にとってとても必要なことです。特別
養子縁組が成立し法律上の親子にな
っても、戸籍には「特別養子縁組で
ある」という記載がされるので、知らな
いまま過ごしたこどもが自分が養子
であることを見つけてしまうことで、
これまでの親子関係が崩れてしまう
ことがあります。また「こどもの知る
権利」を保障するためにも、「真実告
知」は「養親がこどものために必ずするこ
と」と言われるようになりました。大
分県でも「真実告知」の必要性を里親
(特に養子縁組里親)さんに研修など
で伝えてきました。

今回のワークショップでは、特に養
親さん対象に「なぜ真実告知が必要なの
か?」「養子の想い」「養親の想い」な
ど考えてもらい、実際にこどもにどの
ように話せばよいかなどを皆さんに体
験してもらいました。途中で涙ぐむ方
や、自分の思いを聞いてもらって安心

された方など様々でした。参加された里親さんからは「とても勉強になった」「真実告知は難しいと思っていたが、この研修に参加して、これから子どもに少しずつ話していこうと思う」などの感想をいただきました。

養子縁組を必要としているこどもの背景はみんな違います。私たちブレス・ユーは養子縁組里親さんと養親さんの想いやこどもの想いを考えながら、またこどもが成長するにつれて変化する告知の内容などを養親の皆さんと一緒に考え、伝えるお手伝いをしていきたいと思っています。



一人ひとりに寄り添った 離乳食教室

栄養士 木元 優子

2024年春、新たな支援体制を強化し乳幼児総合支援センター栄光園がスタートしました。これまで培ってきたそれぞれの専門性を活かした温かく家庭的な養育に加えて、地域支援、里親支援、子育て支援、居場所支援へと、全職員一丸となって取り組んでいます。気づいたらアツ！と言う間に半年が過ぎていました。様々な事業が開始すると同時に食事作りの方も変

化に富み目まぐるしくなりました。

離乳食教室では、里親認定前研修として



の実習を皮切りに少しずつ地域の方々からの個別の相談も増えてきている状況です。赤ちゃんの成長過程で大きなステップとなるのが離乳食です。今まで母乳やミルクだけだった赤ちゃんの世界が大きく広がる瞬間です。その大事な瞬間を一人ひとりの心に寄り添った支援をこれからも心掛けていきたいと思っています。初めての離乳食は不安と期待でいっぱいかもしれませんが赤ちゃんへのたくさんの愛情で、一人ひとりの赤ちゃんにとって優しい離乳食となることでしょう。すべての赤ちゃんが温かくて優しい笑顔に包まれていることを祈っております。

青山保育所

昨年中はたくさんのご協力をありがとうございました。

職員一同

体験遠足楽しかったよ!

保育士 松本 真人

11月に5歳児のお友だちが体験遠

足で「うみたまご」と「高崎山」に行きました。海の生き物や山に暮らす猿たちに出会い、子どもたちは目を輝かせていました。



うみたまごでは、大きな水槽に泳ぐ魚やイルカショーに大歓声!「あの魚、見たことある!」「イルカすごいね!」と、みんな夢中になって海の世界を楽しみました。高崎山では、猿を間近で観察し、家族で集まる様子や赤ちゃん猿に大喜び。怒りっぽい猿やおとなしい猿など、様々な猿の姿に驚きの声をあげていました。

また、遠足前に車椅子が通れる道や点字案内板などの「ユニバーサルデザイン」について学ぶ活動をしました。この日、それぞれの施設内では「これユニバーサルデザイン?」と手すりや点字ブロックを見つける子どもたちの姿がありました。

子どもたちはこの遠足で、たくさん発見をしました。この経験が、自然や社会への関心を育むきっかけになればと思います。



秋のおいしいものを満喫

保育士 宮本 真耶加

11月に秋の味覚祭りがありました。園庭で遊んでいると美味しそうな匂いが漂ってきて、自然と秋刀魚を焼く園長先生の周りに子どもたちが集まり始めました。近くで秋刀魚を見たり、匂いを嗅いでみたりと炭火で焼く秋刀魚に興味津々の様子でした。



2歳児のお友だちはきのこ割りきにも挑戦しました。きのこの香りを匂ったり、きのこの感触に触れてみたりしながら上手にきのこを割くことができました。

この日は園庭で給食を食べました。秋の空気を感じながらあつという間に完食し、おかわりもたくさんしてお腹いっぱいになるまで秋の美味しいものを満喫することができました。

ドキドキした発表会

保育士 原 美香子

12月に発表会が行われました。うさぎ組0歳児の子どもたちは初めてのステージ発表でした。練習当初は、初めての活動に戸惑い、子どもたちは周りの様子を伺うようにキョロキョロする姿がありましたが、音楽に慣れ親しむ



と、友だちや保育士と笑いながら遊びに参加するようになり、発表会当日を迎えることができました。本番では緊張して立ち尽くしたり、動きが小さくなったりする姿もありましたが、多くのお客さんの前で誰も泣かず参加することができてその姿に感動しました。

遊びの中で子どもたちは友だちと一緒に抱き合ったり、できた時には一緒に拍手をしたり、友だちや保育士のやり取りを楽しむ姿があり、他者との関わりが増え始めたように感じます。日常の遊びの中でも笑い合っていることが多く、発表会の遊びを通して、自分だけではなく保育士や友だちの存在を意識して一緒に遊んだり、触れ合ったりする楽しさを感じられているように思いました。

ぺったんこ、それぺったんこ

保育士 阿部 梢

先月はお餅つきがありました。当日までは小麦粉粘土を使っての見立て遊びを楽しみ、もちつきの歌に合わせて段ボール製の杵で練習をしていた子どもたちです。本番では、練習とは違

本物の杵の重さやお餅の粘り気に苦戦している様子が見受けられました。力がいっぱい杵を振り上げ、たくましく成長した姿が見られました。



お餅つきが終わると次はお餅丸め！というところで、手にひつついてくるお餅と再び格闘しながらも、小麦粉粘土での練習の成果をしっかりと発揮し、上手に丸めることが出来ていました。つきたてのお餅はとても美味しかったようでたくさんおかわりをして食べていました。

今後もお正月を迎えるにあたり、日本の伝統文化に触れるような体験がたくさんできると良いなと思っています。

野口保育所

明けましておめでとございます。本年もよろしくお願ひ致します。昨年の秋から冬にかけての行事をご紹介します。

運動会



主任保育士 末吉 佳奈
運動会を10月18日(金)市民体育館

で行いました。観に来て頂いたたくさんのお家の方が拍手で応援してくれ、緊張していた子どももいましたが、最後まで頑張っていてとても良かったです。大きな行事の一つである運動会を経験したことで子どもたちの自信となりまた一つ成長したのではないかと思います。

発表会



保育士 三澤 亜美

りんご組(3歳児)は、歌やダンスやごっこ遊びが大好きで、発表会に向けての約1か月間楽しみながら練習に取り組みました。ホール練習やリハールでは、他クラスがステージに立つ様子を見て、刺激を受けたり、また見てもらうことでステージに立つことになれ、ほめてもらうことで徐々に自信をつけていき、いよいよ発表会当日。堂々とした姿、楽しむ姿を保護者の方々に見てもらい、また一つ大きく成長した子どもたちです。



もちつきしたよ!

主任保育士 末吉 佳奈

12月20日(金)全クラスで餅つきをしました。蒸しあがったもち米をりんごぐみ、めろんぐみ(3・4・5歳児)が「ぺったんこ、それぺったんこ」と歌いながら杵でもちをつき、5歳児の子どもたちが鏡餅を作ってくれました。



各クラスで出

来たてのもち米やお餅を砂糖醬油で食べました。出来たてのお餅は「美味しい!」「柔らかい!」「ニコニコ顔の子どもたち。とても喜んで食べていました。昔ながらの伝統ある餅つきを子どもと経験することができて、またひとつ楽しい思い出となりました。

クリスマス会



保育士 近藤 枝里

アンパンマンと同じくらい人気者のサンタさんの季節がやってきました。ぶどう組(2歳児の部屋)は、子どもたちの作ったツリーやサンタさん、トナカイさんが飾られ華やかになりました。「まっかなおはなの♪」と口ずさ



みながら遊ぶ子どもたちの姿もあり、どこかウキウキした様子でした。当日は踊りを踊ったり、スクリーンでプレゼントを届けるサンタさんが中継され大興奮でした。しかし、午後のおやつで本場にサンタさんが登場するとびっくりする子どもたち。サンタさんが帰っていくと「サンタさんきたね」と嬉しそうに話し、笑顔溢れるクリスマスになりました。



子どもたちが毎日楽しく過ごし良い思い出が出来るように、残りの3か月も職員力を合わせて頑張っていきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願致します。

野口保育所 職員一同

地域交流事業
集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

トリックオアトリック

10月は、ハッピーハロウインのイベントを行いました。自分で作ったコスチュームで仮装して近くの事業所を訪問させていただきました。それぞれ思いの飾りをつけて自分のマントを作ってそれを身に付けて出発しました。児童養護施設栄光園、乳幼児総合支援センター栄光園そして、別府重度障がい者センターと福笑居さんの4か所を訪問させていただきました。近くではありますが訪問するのは初めてという子どもがほとんどでした。これを機会にどんなところなのかも興味を持ってほしいと思えます。

ご協力いただきました皆様ありがとうございます。おかげさまで子どもたちに楽しい経験をさせてあげることができました。

これからもよろしくお願致します。



聖書の言葉

(ヨハネによる福音書13章8節)

ペトロが、「わたしの足など、決して洗わないでください」と言うと、イエスは、「もしわたしがあなたを洗わないなら、あなたはわたしと何のかかわりもないことになる」と答えられた。

別府不老町教会 牧師 尾崎 二郎

イエス様は、この地上にあって弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれました。その愛の業は、具体的にどのようなものであったのでしょうか。

相手の足を洗うこと、洗足は、へりくだって相手に仕える象徴的な愛の業の一つです。相手の前にひざまずいて行うその姿からして、今日の私たちでもそこに謙遜な愛の業を見いだすことは容易です。

しかし、聖書にはそれ以上のことが書いてあります。それを知るために、先ず、当時行われていた洗足の内容をご説明します。当時は簡易なサンダルのような履き物で外を歩いたので、家の中に入る前に土埃を落とすために、必ず足を洗っていたそうです。そして洗足の業は、宿屋や家の使用人が担っていました。つまり、当時、洗足は、日常的に行われる業務であり、必ずしも愛の業であるとは限らなかったということです。勿論、愛を込めて洗足を行う人もいたでしょうが、反対に、業務的にそれを行っている人も多かったのではないのでしょうか。

イエス様は、ペトロ等の弟子たちにとって「先生」でしたので、決して弟子たちを洗足するような立場の方ではありませんでした。ですから、平生、イエス様が弟子たちを洗足することはなかったのです。ところが、十字架の時

が来たことを悟ったイエス様は、その時、敢えて弟子たちの足を洗ったのです。この時のイエス様による洗足は、弟子たちを愛し抜かれたと言える程に深い愛の業でした。

イエス様は、それまでに、病人を癒したり、波立つ湖面の嵐を静めたりと、人間には出来ない愛の業を、日常的に行われました。それに較べたら、洗足は、人間にも出来る平凡な愛の業に思えるかもしれません。

しかし、洗足が、深い愛の業である理由は、その業が、心を尽くして行うなら、誰にでも出来る愛の業だからです。ペトロは次に「主よ、足だけでなく、手も頭も」と言って、イエス様に応答しますが、洗足という愛の業によって、その場が和んでいる様子が窺われます。そして、イエス様は次の様に言われました。「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならぬ。」イエス様はこの様に知恵を尽くして、私たち自身が愛する者となるために、私たちが深く広く愛されたのでした。

洗足という具体的な愛の業を見てくださいましたが、今の私たちも、平生の愛の業が業務的になったり御座なりにならない様に、時には、敢えて行う愛の業も必要でしょう。

しめ縄飾りづくり

11月は、お正月に飾る「しめ縄飾り」を作りました。森永静夫氏においでいただき稲わらでしめ縄をないました。



この稲わらは、まだ米が実り切っていない青いうちに根元から刈り取った特別

なものだそうです。貴重な藁を準備していただきありがとうございます。子どもたちは初めてのしめ縄づくりにも四苦八苦していましたが、ボランティアの皆さんの助けもあり何とか仕上げることができました。おかげで参加者全員が新しい年を迎える準備をさせていたできました。



100万人のクラシックライブ

12月は、「100万人のクラシックライブ」を開催しました。この「100万人のクラシックライブ」は、音楽で心の健康と豊かな体験を届けたいとの思いを込めた子どもたちに音楽を届けるプロジェクトです。

今回で3回目となりましたが、今回もバイオリンやピアノの音色が心に響

き、胸が熱くなりました。私にとっても素晴らしい体験となりました。

当日は、土屋昭穂様と酒井円香様のお二人でのライブを楽しませていただきました。お二人とも様々なところで演奏活動をなさっており、経験豊富なお二人の奏でる音色にうっとりとした聴き入っていました。

途中、音楽であらわされている動物は何かを当てるクイズや、ピアノやバイオリンとの合奏を楽しみました。そして、最後にバイオリンを弾く土屋さんが、客席の中に入っていく、間近でバイオリンの音色を聴かせていただきました。子どもたちにとって印象に残る経験となったことでしょう。

これからもこのような子どもたちにとって有意義な体験ができるよう取り組んでいきたいと思えます。

コンサートの後、サンタさん(チャリティーサンタ)に素敵な絵本をいただきました。音楽・絵本という心の栄養をプレゼントしていただき感謝しています。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。ありがとうございます。



栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2024年10月1日より2024年12月31日截止】

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 上野貢一様 南さつま市
- 影山隆之・由利様 別府市
- 吉良一ひろ様 別府市
- 榎大くろーばー薬局様 別府市
- 真閑公認会計士事務所真閑孝也様 大分市
- 島田晋様 大分市
- 立花旦子様 大分市
- 永尾福康様 大分市
- 長谷川士郎様 別府市
- 帆足和生様 別府市
- 増田百枝様 日田市
- 宮澤淑子様 大分市
- 宮本妙子様 別府市
- 山口産業(株) 別府市
- (株)栄光建設 塩月逸男様 富田林市
- 竹内富美雄様 別府市
- 荻野克彦様 箕面市
- 日本競輪選手会大分支部様 別府市
- 匿名様 中津市
- 浅海重子様 西条市
- 安部良一様 日出町
- 伊勢方信様 別府市
- 井上せつ子様 大分市
- 猪俣匠子様 別府市
- 岩田智子様 大分市
- エンジョイゴルフイン大分事務局様 別府市
- 大分銀行労働組合 大分市

一般寄付

- 太田桂子様 浜松市
- 亀井浩様 別府市
- 久保実能様 別府市
- 三栄建設工業(株)様 大分市
- 税理士法人アール様 大分市
- 税理士法人 大分綜合会計事務所様 別府市
- 高木政嗣様 別府市
- 匿名様 別府市
- 日本基督教団門司教会様 北九州市
- 別府不老町教会様 別府市
- 別府不老町教会 婦人会様 別府市
- 医療法人松本小児科医院 松本重孝様 別府市
- 南範子様 中津市
- みらい信金同友会石垣支部様 別府市
- (株)北方鮮魚店様 別府市
- 轍の会様 別府市
- ワタナベタダシ様 別府市
- 安東秀典様 大分市
- 神鳥慶子様 杵築市
- 岡口文明様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 荻野克彦様 箕面市
- 平川順子様 別府市
- 姫野善昭様 別府市
- 波多野郁子様 別府市
- みかん 安部農園様
- 食品詰め合わせ
- (株)カーライフ大分代表取締役社長 永田大作様
- レタス コルデアアール農園 RYJapan(株)様
- 九州電力様
- 高速道路トールテクノロジー様
- (株)ジーエムエーシステムズ様
- (株)林ケミックス様
- 洋服・雑貨 税理士法人 アール従業員
- 矢部千加・高柳和世・北江理実様
- 図書券・ポテイソーブ
- WEST VILLAGE 西村大輔様
- ビューティモア 中村雄一様
- おせち料理 アサヒビール(株) 平間友也様
- クリスマスのお菓子 安部純子様
- 乳児服 安東秀典様

特別物品寄付

